

地域の概要



出水市の北東の山間部に集落が点在する大川内地区。人口583人、高齢化率60.03%（R7.9月現在）と高齢化、過疎化がどんどん進む。



取組のきっかけ

協議体でもある大川内地区コミュニティ協議会が進む高齢化を危惧し、地域でいつまでも暮らすためにも「助け合い」を取り入れた有償ボランティア活動に取り組みたいが、どう進めたらいいかわからないと生活支援コーディネーターに相談があったため、地域住民の目線の共有からはじめ、できる活動を話し合い、取組に至った。

取組の目的

- 地域住民の助け合いに関する意識の共有を大事にする
- いつまでも自分らしく暮らせる地域になるよう地域住民内で解決できる活動にする
- 地域住民のできる事をできる人ができる範囲でやれる活動を進める
- 見守りがかねてのコミュニティづくり

これまでの経緯

年・月	出来事
令和5年7月	助け合いに関する住民アンケート実施
令和5年9月	助け合いに関する勉強会① アンケート結果の考察と大川内地区の現状把握
令和5年10月	助け合いに関する勉強会② 他地区の有償ボランティアの事例を学ぶ
令和5年11月	助け合いに関する勉強会③ 自分達が出来そうな有償ボランティア活動を草刈りとした。
令和6年1月	助け合いに関する作戦会議 「てげてげふれあい助け隊」と名称を決め、しくみの大枠を固めた。
令和6年2月	さわやか福祉財団「地域助け合い基金」採択 ベスト、ヘルメット、チラシ等の資金に充当した。
令和6年4月	「てげてげふれあい助け隊」結成披露、地域全戸へチラシ配布
令和6年7月	第1号草刈り依頼実施
令和6年7月	「てげてげふれあい助け隊」隊員草刈り研修会実施
令和7年2月	出水市高齢者等ごみ出し支援事業を活用し、ごみ出し支援チームが結成した。

活動の概要

- ①草刈りチーム 依頼のあった地域住民の家屋周辺の草刈りを有償で実施する。
 隊員：地域住民有志 17名 15自治会を5グループに分け、依頼担当グループが活動を行う。
 原則2名で活動を実施、依頼後、見積、当日の実施で見守りを兼ねる。
 地区コミ：依頼の窓口、隊員への連絡、活動日の保険加入を担当する。
 [頻度・利用人数・利用者負担]
 ●電話にて随時依頼
 ●年間5件程度
 ●利用料金は見積で試算 2名活動で1時間2,000円から（利用者が当日直接隊員へ支払う）
- ②ごみ出し支援チーム 利用者が玄関先に出したごみを支援者がゴミステーションに出す
 隊員：地域住民有志
 地区コミ：出水市高齢者等ごみ出し支援事業の申請団体として手続きを実施、保険加入を担当する
 [頻度・利用人数・利用者負担]
 ●燃えるごみの場合、年間50回以上（補助金は1回100円 50回分5,000円上限）
 ●1世帯
 ●利用者の負担はなし 年度末に実績報告した補助金を隊員へ支給

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|--|---|
| [行政担当者としての役割]
●助け合いに関する勉強会の際、地域の現状、他地区の現状等を報告
●ごみ出し支援の市事業への登録手続き・補助金申請等の支援を実施 | [SCとしての役割]
●助け合い活動の目線の共有のため、活動実施までの過程を大切に取り組んだ。
●隊員の負担にならないような仕組みづくりを支援
●助成金の申請支援 |
|--|---|



現時点での到達点（効果・課題など）

- | | |
|---|--|
| [効果]
草刈りは毎年リピート利用があり、利用者に喜ばれている。ごみ出し支援も見守りを兼ねた活動として利用者の感謝の声があがっている。 | [課題]
隊員も高齢であるため、自分達ができる範囲の取組として実施しているが、アンケートの要望にもあった山林・田畑までの草刈り支援、家事支援や移送支援までには至っていない。 |
|---|--|